芦屋市人権シンボルマーク

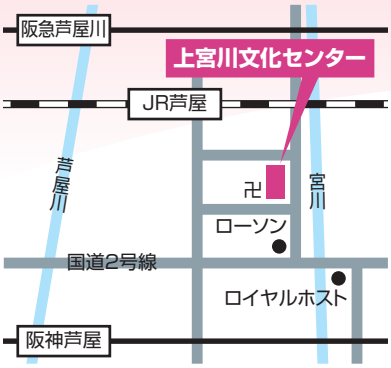
みんなで考えよう
平和と人権
「人権文化をすすめる県民運動」

第71回 ふれ愛シネサロン

戦中から現代へ―。親から子、子から孫へ受け継がれる、ある家族の“愛の実話”。

監督：深川栄洋　企画：向井 理　出演：尾野真千子　向井 理　岸本加世子　野際陽子　ほか

©2017「いつまた、君と 何日君再来」製作委員会



令和4年8月6日(土)　〈2回上映・30分前開場〉
①10:00～12:00　②13:30～15:30

上宮川文化センター 3階ホール　芦屋市上宮川町10番5号［駐車場はありません］

申し込み方法：7月1日㈮から7月29日㈮までに電話で受付
＊託児（6か月～未就学児）／定員各回3人
＊託児申込みは、7月29日㈮までに人権・男女共生課へ

要申込み
入場無料
各回150人

●土足厳禁のため上履き・靴袋をお持ちください。●マスクの着用をお願いします。●新型コロナウィルス感染拡大の状況により、定員を縮小する場合があります。

申し込み・問い合わせ／人権・男女共生課　TEL.0797-38-2055
主催／芦屋市・芦屋市教育委員会

不器用だけれど明るく生きる、実在の夫婦と家族の姿を通して、日本人のたくましさ、誠実な生き方を描く、愛の実話。

81歳になった芦村朋子は、
不慣れな手つきでパソコンにむかい、
亡くなった夫・吾郎との思い出を手記として記録していた。
しかし、朋子は突然病に倒れてしまう。

そんな朋子の代わりに、孫の理が
『何日君再来』と題された祖母の手記を
まとめていくことに。

綴られていたのは今まで知ることのなかった、
戦中・戦後の困難な時代を生きてきた
祖母・朋子と祖父・吾郎の波乱の歴史と、
深い絆で結ばれた夫婦と家族の愛の物語だった――。

俳優・向井理が祖母の卒寿（90歳）のお祝いに、家族や親せきと自費出版して贈った祖母の手記を、向井自ら映画化に向け7年の歳月をかけて企画してきた意欲作。

戦後70年を越え、想像をはるかに上回る急成長を遂げてきた日本。こうした背景には、映画にもドラマにもならなかった人々の生活があった。「いつまた、君と～何日君再来～」は、特別な人の稀有な逸話ではなく、ごくごく普通の暮らしを懸命に生きてきた人々の物語である。だからこそ、いま、伝えておかなくてはいけない、知っていてほしい大切なメッセージが詰まっている。

現代の私たちの心をも揺さぶるに違いない、すべての日本人へ捧げる、あなたの家族の物語―。

©2017「いつまた、君と 何日君再来」製作委員会